

Act 4U

四日市の未来を動かす。

まちをもっと沸かせたい。人のために役立ちたい。

この熱い想いを、行動に変えていく。

アクト・フォーユー
私たちの決意表明が、「ACT 4U」。

for you=地域の未来を動かすアクション。

4日市 University から、広がっていきます。

特集 「新型コロナウイルス」対応
「Act 4U」とは何か

コロナ禍に抗して



学長 岩崎恭典

本学が、「Act4U」というキャッチコピーを掲げ地域貢献型大学としてさらに強くアピールしようとしていた矢先の今年2月、新型コロナウイルス感染症の拡大により国による小・中・高校の休校要請から始まって、3月の文科省の「遠隔授業の取り扱い方針」の通知、そして4月の緊急事態宣言発出と、世界がコロナ禍に見舞われるなか、本学も、学位記授与式（卒業式）・入学式を中止し、5月連休明けまでの休校と、その後は全ての講義を遠隔授業とすることなどを立て続けに決断しました。先生方には、5月の連休を使って、遠隔授業の準備を、学生諸君には、ネットの通信環境や機材を確保することをそれぞれ要請し、必要な学生には、ルーターの貸し出しを行いました。

ただ、地域貢献型大学として「地域を教室に、地域の皆さんを先生に」と謳ってきた本学の教育方針からいえば、地域連携授業を全面休講したことも痛かったですが、遠隔授業はいかにももどかしく、また、対面授業こそが大学本来の教授方法であるとの確信もあり、5月25日に緊急事態宣言が解除されると、さっそく、対面授業へのできる限りの移行を先生方にお願ひしました。その結果、約6割の授業は対面に復帰できました。しかし、教室内の三密を避けるために前後左右を空けるように座ると、教室の定員は、本学最大の400人教室ですら約100人しか収容できないため、後学期もオンデマンド授業が約3割程度続いているのが現状です。

8月に実施した、学生諸君へのアンケート調査の結果によると、「感染リスクを避けられてよかった」、「通学時間が省けてよかった」などと遠隔授業を評価する声もありましたが、一方で、「課題が多い」、「教員に質問や相談がしにくい」といったマイナスマ面の指摘も少なからずありました。

現在、大学としては、遠隔授業については、マイナスマ面を十分踏まえたいうえで実施すること、また、授業以外での学生同士のつながりの機会を逸した1年生に対しては、きめ細かな学生対応を先生方にお願ひしているところです。

今回大学としては、多くの遠隔授業ソフトを期せずして創り出すことができました。この貴重な成果を、社会人の皆様への生涯学習やリカレント教育に活用できないだろうか、また、多人数の講義はオンデマンドを中心とした遠隔授業に切り替え、余裕のできた時間割の中で、少人数の演習（ゼミナール）活動を充実させ長時間実施することも考えたいと思います。あわせてコロナ禍を奇貨（減多にない機会）として、掲げ始めたばかりの「Act4U」の内実を深めていきたいと思っています。



新型コロナウイルス対応状況概要

1. 危機管理委員会の立ち上げ
2. 各種式典（行事）の中止
3. 新年度授業の開講延期と大学閉鎖
4. 授業の再開に向けた遠隔（オンライン）授業の導入
5. 前学期中途からの遠隔（オンライン）による授業の再開
6. 臨時の学生支援（措置）
 - Wi-Fi ルーターの有償貸し出しの実施
 - 生活費の困窮に対応した生活資金の無利子貸し付けの実施
 - 質問等にメールにて一括対応するヘルプデスクの設置
 - 各種学生対応窓口への飛沫拡散防止シートの取り付け
 - 学生食堂テーブルへの飛沫拡散ボードの取り付けと10月1日からの縮小営業の再開
 - 3密を避けた教室座席配置の実施など

グッドプラクティス賞

新型コロナウイルス対応のために組織された「遠隔授業推進ワーキンググループ」(座長・千葉賢教授) が9月2日に行われた「教学フォーラム」にて、本来は優れた授業の取り組みを表彰する Good Practice 賞を受賞しました。

Good Practice 賞により今後も優れた取り組みが増えていくことが期待されます。

なお、2019年度の受賞者は次の先生方でした。



岩崎恭典学長(右)と千葉賢教授(左)



2019年後学期受賞
環境情報学部 城之内忠正前教授



2019年前学期受賞
総合政策学部 永井博教授

「NEW BRAND」 「Act4U」とは何か

四日市市との公私協力関係に基づき開学した本学は、学生や教職員が地域貢献活動に力を注いできました。例えば、大四日市まつりにおいては、学生たちが「大入道」の曳き手として協力し、B級グルメの祭典「B-1グランプリ」では、四日市名物の「とんてき」をご当地グルメとしてPRする為に参戦しています。また、三重大学の大型海洋実習船「勢水丸」に乗船し、2泊3日の「海洋実習調査」を行い伊勢湾のマイクロプラスチック問題を研究する取り組みや、四日市市のコミュニティFM放送でのラジオ番組制作に関わるなど、現場体験から学ぶ「アクティブラーニング」を大切にしてきました。

そして、開学30周年（2018年）を経た2020年から、本学の建学の精神である「人間たれ」を、さらに本学の教育に落とし込んでいく為に、地域貢献活動に積極的に関わってきた学生たちの意見も取り入れた、学内外へ発信する新たなスローガンとして「Act4U」というキャッチフレーズを打ち立てました。

「Act4U」（アクトフォーユー）——「Act」には、自分たちの行動が「地域のために、誰かのために」といった学生たちの熱い思いが込められ、「4U」は「4（四日市）、U（University:大学）」と「4（For）、U（You）」を表し、これは「四日市大学は、あなたのために活動（Act）します。」という決意表明を意味します。

「Act4U」の精神に導かれた学生たちの活



副学長 鬼頭浩文

（入試広報担当）

動は、県内・国内にとどまらず、災害ボランティアでは、宮城、福島、茨城、岡山、長野、熊本などに泊りがけで活動し、タイのスタディツアーでは、青年海外協力隊、国際ボランティアに参加し、発展途上国での活動を体験することで、国際協力の知識を深めています。

少子高齢化に伴う地方の問題、昨今のコロナ禍による私たちのこれからの暮らし方、そして様々な社会の課題に対して自分たちで課題を発見し、解決するための策を考え、行動に移す、そんな「四日市大学モデル」で培った力は、就職して、社会のため、人のために役立つ仕事に就きたいという強い職業観につながります。「Act4U」を掲げて活動を展開した経験は、就職活動においても、そして社会人になった後も、必ず生きてくるものと信じています。



▲ 災害ボランティアの様子 ▼



「Act 4U」の展開

2020年度から本学の新たな特徴を「Act4U」と通称し学内外へ向けて発信しています。三重の中心都市である「四日市」と「桑名」では、地域社会の発展を心から願う本学の教育活動を印象づけた「山口真季さん（アリス・イン・ワンダーランド）」が近鉄四日市駅ふれあいモールのデジタルサイネージや桑名駅の新駅舎に巨大パネルとして登場しています。

「地域で学び、地域に還元することによって、地域の発展に貢献する事」この熱い想いを、行動（ACTION）に変えていく。私たちの決意表明が「ACT4U」。



桑名駅新駅舎エスカレーター付近



近鉄四日市駅ふれあいモール

日本語教師が留学生に勧めたい大学 2020年日本留学 AWARDS 入賞！

「日本留学 AWARDS」は、一般財団法人日本語教育振興協会が主催する「日本語学校教育研究大会（専門委員会）」が、多くの日本留学を志す外国人留学生の環境整備に貢献することを目的に2012年に創設した賞です。全国の日本語学校教職員が留学生に勧めたい進学先として、大学文科系・理工系、大学院など部門ごとに東西地域の上位校が選出されます。

そこで本学は西日本地区私立大学文科系部門において「上位」入賞を果たしました。



SDGsって何だ？

SDGsの推進



副学長 松井真理子
 (社会連携・研究支援
 戦略企画担当)

SDGs (エスディージーズ) という言葉を最近よく耳にするようになりました。丸いカラフルな「SDGs バッジ」や、SDGs に関する解説書などもよく目にします。しかし、三重県が2020年1~3月に実施した「みえ県民意識調査」によりすると、SDGs を「よく知っている・少し知っている」と回答した人は1割にも満たず、「全く知らない」人は約8割と、全体的に見ると広がりはまだまだのようです。

私がSDGs に出会ったのは、2016年5月の伊勢志摩サミットの時でした。SDGs の作成プロセスにも関わったNGOのリーダーから説明を受け、これが2030年までの、世界共通の「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」であることを知りました。よくありがちな空疎なカタカナのスローガンとは異なり、SDGs には強烈なインパクトがあります。まず、「誰一人取り残さない」というスローガン。私は大学ではNPO論や人権論などを教えているが、これはその真髄そのものです。それから、「人間」



「経済的繁栄」「地球」「社会」「経済」「環境」ともいう)を統合的に推進するアプローチ。人類がまだ獲得できていない新しい豊かさを、先進国も途上国も共に創っていくこうという壮大な目標には、深い感動を

覚えました。
 本年3月、トヨタ自動車の豊田章男社長は、新型コロナ危機を「企業も人間もどう生きるのかを考え直す最後の機会」とし、「私の使命は『Youの視点(自分以外の誰かの幸せを願い、行動する)』をもつ人財を育てること」であり、このために「SDGs に本気で取り組み」とスピーチをしています。SDGs は危機の時代にこそ生きてくるようです。
 考えてみれば、「人間たれ」「経済・社会・環境の

暁学園 × SDGs

第二次世界大戦の翌年(1946年)、暁学園は、平和で民主的な文化国家を設立するために真に必要なのは、豊かな教養を身につける質の高い教育であり、それにより、女性も活躍できる男女平等の社会が実現するとの信念の下、宗村佐信初代理事長と四日市市長との協力で創立されました。このように、暁学園の創立理念である「平和希求」「男女平等」「質の高い教育」という目標とその背景にある地域との「パートナーシップ」は、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」と重なります。

2021年に創立75周年を迎える暁学園は、創立当初から担ってきた学園の社会的使命が、未来の地球、これからの世代のために一層重要になるという確信を新たに、「暁学園×SDGs」を掲げ、学園の設置校である2大学、高等学校、中学校・高等学校、小学校、幼稚園の全校種の活動で様々な貢献をこれからも続け、活動成果を発信していきます。



みえアカデミックセミナー



政策・戦略企画力養成プログラム

社会連携活動の一環である「生涯学習」事業について、今年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底した中で実施しています。
 今年度から開始した履修証明プログラム「政策・戦略企画力養成プログラム(BP)」では、23人の受講者がロジックモデル等の政策形成スキルや、NPOや地元企業の現場からの問題提起、地場産業の課題等について学び、2021年1月9日の政策発表会に向けて準備中です。
 毎年恒例のみえアカデミックセミナー「最近の海洋プラスチック問題と伊勢湾の状況について」、夏休み読書会「ミステリーを読む」、四日市市民大学「高齢社会を健やかに生きる」、公開講座「家族のすがた」小説・映画・マンガのなかの家族」等を開催しました。好評裡に終了しましたが、定員制限のためにお申し込みを受けられなかった方には大変申し訳ありませんでした。

社会連携等活動

学び「Act4U」など、四日市大学のこれまでの取組みは、SDGsと重なるところが多いです。2030年へのSDGsの高い目標に向かって、四日市大学も新しい一歩を踏み出すことが、高等教育機関としての社会的責任ではないかと思えます。

本学の教育の質向上に向けた取り組み



副学長 小林慶太郎
(教育・学生支援担当)

新型コロナウイルスへの対応として、本学においても今年度は、オンラインでの遠隔授業や、課外活動の制限など、これまでとは異なる形でのキャンパスライフとなりました。

保護者の皆様方には、いろいろとご心配をいただいたことと思いますし、学生の皆さんも途惑うことが多かったのではないかと思います。暗中模索しながらの半年でしたので、いろいろと至らぬ点も有ったかと思えます。その点は、学生・保護者の皆さんには、申し訳なく思っております。

その一方で、これまで取り組んできた教育の質の向上に関しては、このコロナ禍の下でも、着実に進めて参りました。以下では、その取組みについて、ご紹介いたします。

先ずご紹介したいのが「成長スケール」です。地域から求められる人材へと4年間を通して継続的に成長していくことを実現するために、本学では、教員と学生が成長に向けた課題を共有し、毎年面談することで成長を確認していくツールとして、「成長スケール」を開発し、2016年度に導入いたしました。

この成長スケールの下で入学時から育った最初の学生たち(本年3月卒業)の状況を、この成長スケールのデータから確認すると、9つの指標すべてにおいて平均して入学時よりも上位のステップへと移行していることや、その中でも特に、「主体性と実行力」、「相手を尊重したコミュニケーション」などの指標での伸

びが著しいことが確認できました。その一方で、指標の伸びが緩やかであった「向上心と努力」などを、いかにして高めるかが課題であるということも、教員の間で共有できました。

次にカリキュラムについてです。人はどのような仕事に就こうとも、自らが暮らしている地域と全く無関係に生きていくことはできません。建学の精神として「人間たれ」を掲げ、「世界を見つめ地域を考える」をスローガンとしてきた本学では、2017年度より、地域について学んでもらうための「地域科目」群と、社会で活かせるスキルを身に付けるための「スキル科目」群を、必ず学ぶ科目として設定した新たなカリキュラムを導入しました。

このカリキュラムの下で学生たちがどのように学びを深めてきたのか、カリキュラムに改善すべき点はないのかなどを評価し、将来的に社会環境の変化に対応して、また新たなカリキュラムを検討していく際に参考とするため、現在、全教員が参加して行っているのが「カリキュラム評価」の取組みです。

こうした取組みも踏まえ、科目間の関連を明らかにし、どの科目から学び進めていくのが良いのかということや学生に明示するために、昨年度の履修要綱からカリキュラムツリーを掲載することになりました。

このほか本学では、主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を積極的に推し進め(コロナ禍のもと一部授業では変更を余儀なくされたものの)、シラバスベースでは、凡そ7割の授業でアクティブラーニングを導入済みです。引き続き、学長が申し込んでいる「地域を教室に、地域の方々を先生に」といった取組みをより進め、学生たちの学ぶ機会をしっかりと保証し、より深い知識や経験を得て人間として成長してもらうために、精一杯努力して参ります。

今後とも四日市大学の教育改革の取組みを応援いただければ幸いです。

特待生との

「学長・副学長座談会」

9月9日、2020年度四日市大学特待生認定証の授与式のあと、会場を移して、特待生との「学長・副学長座談会」を開催しました。

学長からカリキュラムについての意見を求められた特待生の皆さんからは、大学への要望や、特に遠隔授業に関するものなど、様々なご意見をいただきました。いただいたご意見は、今後の四日市大学の教育改革に役立てて参りたいと思っております。



会議室での座談会

2020年度四日市大学特待生(成績優秀者)

学部		学年		学生氏名	
総合政策学部	2	2	中村 伊吹	藤井 海斗	中村 淳希
環境情報学部	3	3	小原 薫	大塚 徳人	北 昇真

ラーニングコモンズ開設

学生の主体的な学びの場として、情報センター1階に、新たな学習空間「ラーニングコモンズ」が完成しました。施設は、従来型の「教員による一方的な講義形式の教育」ではなく、「学生が自ら学ぶアクティブ・ラーニング」環境の充実を図るために新設しました。ラーニングコモンズは、さまざまな人と学びが出会って、楽しくて新しい毎日を創り出す空間です。

この施設は、四日市大学同窓会と四日市大学教育後援会からの寄附を費用の一部に充てています。

可動式の机と椅子は、グループディスカッション、



プレゼンテーション、グループや個人での研究活動、創作学習、自主学習、様々な形態に対応しています。

リレー随筆

みる、みる、見る、見る、観る、観る



環境情報学部 特任准教授 橋本幸彦

人間には5つの感覚、五感があります。視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚です。自然科学に携わる者として最も重要なのはやはり視覚、すなわち「みる力」でしょう。我々は日々様々なものを目を開いて「見て」います。しかしこの見方では、ほとんどのものは情報として素通りしてしまいます。プロアマ問わず少しでも専門的な能力を身につけたいと思うのならば、もう少し集中して「観る力」、すなわち観察力を養わなくてはなりません。

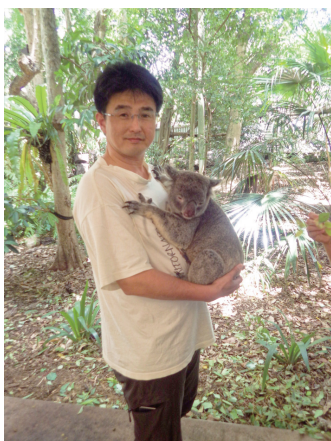
野外に出ると特にそのことを感じます。ちよつとした枯れ葉の乱れを見つけ、どんな野生動物がそこに生息しているのか見極めることが重要になってきます。優れた猟師はそういったものを見逃さないだけでなく、いつ、何がどっちの方向に向かったかまでわかるそうですが、自分はまだその領域にまでは達していません。その他、細かい葉っぱの特徴を見つけ、その樹木の種を特定したり、足跡から動物の種類を推定したり、観察力は非常に重要になります。

さらに「観る力」だけでは足りません。人は視界に入ってくるものをすべて観察することはできないからです。観る対象を見極めるための知識や経験が必要になります。例えばクマが生息しているのか知りたいなら、ミズナラやブナの木を幹をよく観ます。クマが生息しているなら爪痕が残っていることが多いからです。なぜミズナラやブナなのか？それはクマにとってこれらの実が最も重要な食物源で、秋になると頻繁に木に登って食べるからです。こういった知識や経験があると適切な場所を観察でき、様々なことを発見できるので

す。そして意識せずにそういった場所に目が行くようになってきます。

観る力は野生動物の専門家にならずとも重要な力になると思います。例えば書類を相手にする仕事の場合、各書類の重要な部分は限られています。仕事ではその部分をよく確認することが重要になると思います。また、人に会うことが多い仕事では相手の表情や言葉に気を配ることが重要になるでしょう。これらも観る力の一つだと思います。

この観る力、学生に在学中に育んでほしいと思います。そのためには普段見ないものを見ることです。担当している演習ではなるべく屋外に出て様々なものを見学してもらっています。そして、どのようなことでもいいので1つ以上疑問を持つような心がけてもらっています。例えば、動物の足跡を見つけたら、この足跡は何時（いつ）つけられたのだろう、などと考えることでより深く観察するはずで、そしてきつとその力は卒業しても役に立つのではないかと期待します。



「ありがとう」が伝わります。

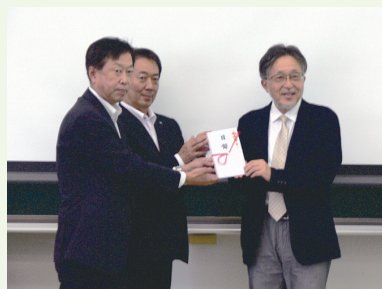
寄贈へのお礼

今年度は新型コロナウイルス感染症予防に係る寄贈品などを多数寄贈いただきました。ここに記して感謝申し上げます。

☆大型スクリーン☆

岡本土石工業株式会社と株式会社第三銀行から、本学82001教室（収容人数400人）に大型スクリーンの寄贈を受けました。これは、岡本土石工業がSDGs私募債を第三銀行にて発行し、その発行手数料の一部を用いて、地域貢献の一環として教育機関などに物品等を寄贈する取組です。6月24日に関係者が揃い、寄贈式が執り行われました。寄贈式にて岡本土石工業の岡本一彦社長から、四日市大学を選んだ理由として「本学の地域貢献の理念に共感したことである」と紹介され、これに対して岩崎恭典学長から、本学の理念を評価いただいたことに対するお礼と大教室にふさわしい大型スクリーンを寄贈いただいたことは、時期に合った大変ありがたいお申し出であったとお礼を表しました。

この他に、株式会社シンコーワからマスク1000枚、未来環境株式会社・イシズム株式会社・株式会社地球人から除菌消臭液20ℓ×10個、三重県住生活子育て支援機構から次亜塩素酸配合除菌スプレー1500ℓ×5本他、多数頂戴いたしました。ありがとうございます。



令和2年度

四日市大学教育後援会 役員一覧

役職名	氏名
会長	上岡 治生
副会長	徳丸 敏行
書記	館 幸樹
会計	田村 由美子
監査	森 彰
監査	田上 和彦
幹事	小野 喜照
幹事	平尾 茂樹
幹事	今村 奉史
幹事	西野 友紀

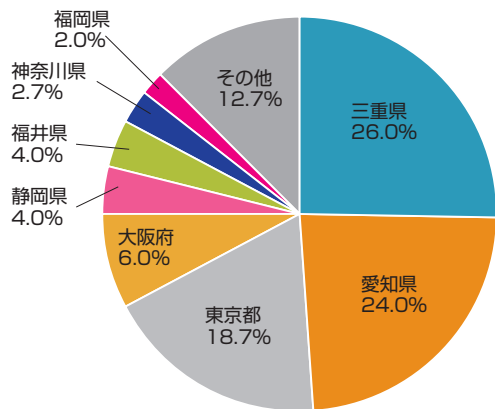
2019年度卒業生の就職結果

2019年度卒の学生の就職環境は、従来の好景気感による採用拡大が落ち着き始め、求人倍率の減少が見られるようになった年でした。厳選採用傾向が出てきていたものの、一方では企業の人材不足感が残っており、まだまだ売手市場であったことで、就職率は98.7%と非常に高い数字となりました。

就職先業種の特徴としては、サービス業が減少した分、卸小売業が伸びているものの、人気業種としては、サービス業・卸小売業・製造業となっており、従来どおりの結果となりました。公務員につきましても、堅実な数字が出ています。

また、本社所在地別のデータを見てみると、根強い地元志向は健在で、三重県本社への就職が一番多くなっています。

本社所在地別就職状況



主な就職先 (2019年度卒業生実績)

愛知県警察本部 / イオンビッグ株式会社 / 岩崎電気株式会社 / ANA福岡空港株式会社 / 京都府警察本部 / 株式会社クスリのアオキ / 桑名三重信用金庫 / 三岐鉄道株式会社 / 株式会社シー・ティー・ワイ / スガキシステムズ株式会社 / 株式会社竹屋 / トヨタ紡織株式会社 / 日鉄環境プラントソリューションズ株式会社 / ヤマト運輸株式会社 / 航空自衛隊 他

4年生の就職活動状況

4年生の就職環境は、就職活動解禁日からコロナ禍の波を真正面に被り、例年ですと一番活発に活動する時期に非常事態宣言が出て、学生も企業も難しい状況となりました。

求人倍率が1.53倍(前年1.83倍)に低下し、就職環境が悪化してきてはいますが、就職氷河期と比較すると高水準を保っています。

未内定学生は諦めずに就職活動に取り組んで貰えば、内定は取れる状況にあります。キャリアサポートセンターも全力で支援を行いますので、学生の皆さんも、内定獲得に向けて最後まで頑張りましょう。

3年生就職関連行事

コロナ禍の影響でキャンパス構内への入構制限が行われていた関係上、前学期中のガイダンスはオンデマンドで実施しました。

後学期は後れを取り戻す分、内容を精選し日程を詰めた形で実施予定です。対象の学生は大変だと思いますがガイダンスに出席し、厳しくなると予想されている来期の就職活動を乗り切る力を付けてください。

3年生就職関連行事

実施日	行事内容等
11月4日	第8回就職ガイダンス「筆記試験対策」
11月11日	一般常識模擬試験
11月18日	第9回就職ガイダンス「ES+履歴書+自己分析対策」
11月30日	SPI 模擬試験
12月2日	第10回就職ガイダンス「企業研究と企業の探し方」
12月9日	【女子学生対象】メイクアップ講座
12月16日	第11回就職ガイダンス「面接対策 (WEB 面接を含む)」
1月7日～	履歴書用写真撮影
1月13日	第12回就職ガイダンス「就職解禁直前対策」
2月16日	就職活動研修会

キャリアサポートセンターの移設について

2020年春から、キャリアサポートセンターは4号館2階へと移転し、新たに「キャリアサポート多目的室」を設置しました。この部屋には、プロジェクターやブルーレイディスクが設置されているほか、フレキシブルに室内レイアウトの変更ができることが特徴で、ミニ就職ガイダンス、試験対策講座など、様々なイベントを実施することが可能です。また、使用されていない時には学生の自習室として開放する予定です。

このたびの「キャリアサポートセンター事務室」の移転と「キャリアサポート多目的室」の設置は、四日市大学同窓会の支援により整備を行うことができました。充実した就職支援を行う環境を整えてもらいましたので、スタッフも心機一転、学生の就職支援に力を入れていきたいと考えています。



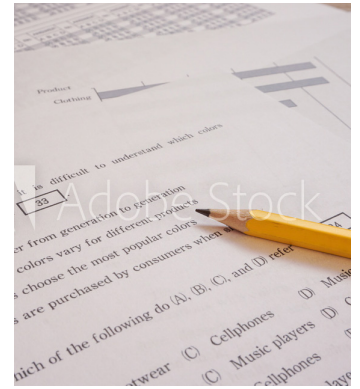
キャリアサポート多目的室

キャリアサポートセンターより
就職状況と就職支援

四日市大学入学試験情報 (2021年度) University Entrance Examination

・総合政策学部・環境情報学部

選抜	入試名称	出願期間	試験日	合格発表日
一般	一般入試A日程	1月5日(火)～1月29日(金)	2月3日(水) 2月4日(木)	2月11日(木)
	一般入試B日程	2月3日(水)～2月18日(木)	2月20日(土)	2月23日(火)
	一般入試C日程	2月25日(木)～3月5日(金)	3月6日(土)	3月10日(水)
	共通テスト利用入試Ⅰ期	1月5日(火)～1月29日(金)	-	2月11日(木)
	共通テスト利用入試Ⅱ期	2月3日(水)～2月19日(金)	-	2月23日(火)
	共通テスト利用入試Ⅲ期	2月25日(木)～3月5日(金)	-	3月10日(水)
	共通テスト利用入試Ⅳ期	3月9日(火)～3月19日(金)	-	3月24日(水)
学校推薦型	公募制推薦入試B日程	12月1日(火)～12月10日(木)	12月12日(土)	12月16日(水)
	クラブ推薦入試B日程	12月1日(火)～12月7日(月)	12月12日(土)	12月16日(水)
	クラブ推薦入試C日程	2月3日(水)～2月10日(水)	2月20日(土)	2月23日(火)
総合型	AO入試Ⅱ期[課題解決型]	12月14日(月)～12月21日(月)	12月23日(水)	12月25日(金)



「インターネット出願」始まる

四日市大学では、2021年度入学試験よりインターネット出願を導入いたしました。スマートフォンやタブレットから、24時間いつでも出願が可能になります。入学検定料のコンビニでの支払いやクレジットカードの決済も可能になり受験生にとって大変便利になります。また、合格発表もインターネットで照会することができ、いち早く可否を確認することができるようになります。

奨学金制度のお知らせ

入学試験特待生

学部	奨学金減免額 (年額)		特待生定員
	I種	II種	
総合政策学部	522,500円	313,500円	30名以内 (I種・II種合わせて)
環境情報学部			

公募制推薦入試、一般入試および大学入学共通テスト利用入試、共通テストプラス入試で、特待生(I種またはII種)を採用します。採用された場合は、授業料等(授業料・教育充実費)の50%(I種)、または30%(II種)を、原則4年間減免します。

特別経済支援「人間たれ」奨学金

暁学園の建学の精神「人間たれ」の基本理念を汲み、経済的事情で大学進学が困難である方への修学支援を積極的に行うことを目的に設立している奨学金制度です。採用された場合は、入学金全額免除、原則4年間の授業料を50%免除します。

【対象となる入試】

- ・一般入試A日程
- ・大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期
- ・共通テストプラス入試

同窓会奨学金

四日市大学同窓会では、卒業生または在学生のご子息、ご令嬢、ご兄弟姉妹等が四日市大学に入学を希望される際に、入学検定料の一部補助や入学金相当額を補助する「四日市大学同窓会入試奨学金制度」を実施しています。

詳細につきましては、入試広報室までお問い合わせください。

●お問い合わせ先 [入試広報室] TEL 059-365-6711 E-mail nyushi@yokkaichi-u.ac.jp

名誉教授称号授与

竹下 譲 令和元年9月11日付
武本 行正 令和元年9月11日付

人事異動

〔退職〕

環境情報学部特任教授 武本 行正 平成31年3月31日付
環境情報学部特任教授 黒島 哲夫 平成31年3月31日付
総合政策学部特任教授 齋藤 信 平成31年3月31日付
入試広報室課長 神内 憲孝 平成31年3月31日付

経済学部教授 熊澤 光正 令和2年3月31日付
経済学部准教授 牛島 謙 令和2年3月31日付
経済学部特任教授 デイビッド ダイクス 令和2年3月31日付
環境情報学部教授 城之内 忠正 令和2年3月31日付
環境情報学部教授 山本 伸 令和2年3月31日付
入試広報室主任 木下 隆司 令和2年3月31日付

〔新規採用〕

環境情報学部特任教授 武藤 和成 令和2年4月1日付
総合政策学部特任教授 フェリペ フェハリー 令和2年4月1日付

〔昇任〕

環境情報学部准教授 廣住 豊一 平成31年4月1日付
環境情報学部准教授 大八木 麻希 平成31年4月1日付

教学課主任 森 万里 令和2年4月1日付
留学生支援課主任 大橋 二美 令和2年4月1日付

編集後記

四日市大学学報第69号をお届けします。本号は昨年末に発行予定でしたが、本学の新しいブランドイメージである「Ac4U」を特集するために遅らせていました。ところが、今年に入って新型コロナウイルス感染症の拡大という予期せぬ事態が発生したことからさらに発行が遅れることになりました。お詫びを申し上げます。